

【計画策定に関する子どもの参画】

1 地域の子どもの意見聴取

本計画の策定過程では、地域の子どもたちが日頃から感じていることを計画並びに今後の市の施策に反映させるために、「各地区ふれあいまつり」において、子どもから直接意見を聴く機会を設けました。子どもの参加状況と主な意見は以下のとおりです。

子どもたちから寄せられた意見については、本計画の推進状況を評価するための計画全体のアウトカム指標の設定の参考にしました。

また、地域に関する子どもの意見については、実施地区へ情報提供を行いました。

子どもの意見聴取の結果

実施概要	
2009(平成21)年9月～12月にかけて23中学校区で実施。 子ども自身が付箋紙に意見を書き、各地区ふれあいまつり会場に設置した「子どもにやさしいまちづくりツリー」(133ページ写真参照)に、貼る形とした(延べ意見件数:4,506件)。	

地区別意見数

	地区名	園児	小学生	中学生	高校生	合計
1	逢妻	3	129	51	2	185
2	旭	5	57	22	3	87
3	朝日丘	1	83	51	4	139
4	足助	12	52	0	3	67
5	石野	0	82	64	19	165
6	稲武	1	25	30	5	61
7	梅坪台	8	72	100	2	182
8	小原	1	53	16	13	83
9	上郷	1	220	225	1	447
10	猿投	6	122	2	0	130
11	猿投台	3	82	65	0	150
12	下山	13	85	22	1	121
13	末野原	1	83	64	0	148
14	崇化館	2	140	76	4	222
15	高橋	2	161	74	4	241
16	藤岡	0	99	104	2	205
17	豊南	45	177	86	3	311
18	保見	15	86	115	0	216
19	益富	0	103	60	0	163
20	松平	0	119	69	12	200
21	竜神	0	120	103	2	225
22	若園	0	131	216	6	353
23	若林	1	166	223	15	405
	合計	120	2,447	1,838	101	4,506

2 意見の特徴

(1) 全体の特徴

- ・地域の事情に応じ、“イノシシが出る”といった特徴的な意見が出される地区もありましたが、全体的に、子どもが考える意見の種類とその特徴（上位意見の割合）は、全市的に同じ傾向となりました。
- ・また、ユーモアのある意見が少数意見として挙げられましたが、上位意見の傾向からも、子どもたちが普段から、真剣に自分たちの住んでいるまちについて考えている結果となりました。

(2) 個別意見の特徴と件数

○どんなまちが好きですか

- ・どんなまちが好きですか、という質問に対しては、「明るいまち、元気なまち、楽しいまち」、「ゴミ等がないきれいなまち」、「いじめがなく、みんな仲良く笑顔で思いやりのあるまち」という意見が、いずれの地区においても多数見られました。子どもたちは特別なことを望んでいるわけではなく、みんなが心地よく過ごせる空間をまちづくりに望んでいる結果となりました。
- ・また、子どもらしい意見として、「学校（勉強）がないまち」なども少数意見として挙げられました。

主な意見	地区数	延べ件数
明るいまち、元気なまち、楽しいまち	23	646
ゴミ等のないきれいなまち	23	463
自然の多いまち	22	246
いじめがなく、みんな仲良く笑顔で思いやりのあるまち	21	224
お店などがたくさんあるにぎやかなまち	22	176
事故や犯罪のない安心安全なまち	20	138
平和なまち	19	92
過ごしやすいまち（しずか・涼しい・やさしい）	10	72
花がたくさんあるまち	17	48
今のままのまち（地元）	16	45

【計画策定に関する子どもの参画】

○みんなでやれる活動やイベントは何ですか

・みんなでやれる活動やイベントは何ですか、という質問に対しては「お祭り」、「環境美化活動」を挙げる子どもがどの地区も多く、これらは「地域のみんまでできる活動」というイメージが、子どもたちの中で強い結果となりました。

主な意見	地区数	延べ件数
お祭り	22	436
環境美化活動	20	256
運動会(スポーツ大会)	17	103
ボランティア活動	7	17
エコ活動(エコキャップ集めなど)	7	16
あそぶこと	5	15
募金(赤い羽根募金など)	5	13
ドッジボール	7	12
コンサート	5	10

○住んでいる地区で困っていることはありますか

・住んでいる地区で困っていることはありますか、という質問に対しては、「ポイ捨て等ゴミが多い」という意見が全地区で多くみられました。どんなまちが好きですか、の質問の結果とあわせ、子ども目線での、まちづくりは、まず住んでいる地域がきれいであること、と考えていることがうかがえます。

・「街灯がない」、「カーブミラーがなくて危ない」などの交通施設の不備や、道路に関する意見(道路が狭い、がたがた、雑草が生えている等)もほぼ全地区で挙げられました。

・「公園がほしい」、「家の近くに遊び場がない」という意見も少数ながら、ほぼ全地区で挙げられました。

・都心地区では、運転マナーの悪さ、交通マナーの悪さが多くの地区で挙げられ、中山間地区ではそのような意見はあまり見られない一方で、交通手段の少なさ、不便さが挙げられました。

主な意見	地区数	延べ件数
ポイ捨て等ゴミが多い	20	174
道が悪い(歩道がせまい、道がガタガタ、急坂、雑草)	15	60
暴走族がいる	16	58
活気がない(お店・イベントが少ない)	12	48
騒音がうるさい	10	38
特になし	9	36
公園がほしい	12	34
治安が悪い	15	33
街灯が少なくて暗い	13	29
虫が多い	12	26
運転マナーが悪い	8	22

子どもにやさしいまちづくりツリー



3 子ども会議からの意見反映

本市では、子どもの意見や考えを聴き、市政及び地域まちづくりへ反映するために「子ども会議」を設置しています。子ども会議は、豊田市青少年センターにおいて、2008（平成20）年6月から月1回のペースで開催し、市政やまちづくりのあり方などについて、子ども委員が意見交換や検討を重ねてきました。

中でも、「子どもが考え、企画できるイベ

ントを実施したい」、「遊びを通した子ども同士の交流をしたい」、「子ども会議からの情報発信をしたい」という声が多かったことを受け、以下の3事業を具体的な事業として計画に反映しました。

今後の計画推進にあたっては、引き続き、子ども会議からの意見聴取を進め、子どもが主体となる事業実施の際には、子ども委員の参画を予定しています。

子ども会議の意見をもとに計画に反映した事業

事業名	事業内容
子どもシンポジウムの開催 <153>	地域における次世代育成支援や子育て支援の気運を盛り上げるため、児童生徒、教員、保育者、有識者等による講演やパネルディスカッション、子育て支援活動の事例紹介、参加者の情報交換会などを実施します。
とよた子ども遊びプロジェクトの実施 <169>	子どもたちの様々な遊び方の紹介や、昔の遊びを体験する場づくりの提供を検討し、子どもたち同士の交流や健やかな心身の成長を育みます。
子どもホームページの開設と子どもの情報発信の促進・支援 <185>	子どもの情報発信の機会と情報交流の場として、子ども会議の活動、子ども関連イベント、地域での子どもの主体的な活動、遊びの紹介など子どもが楽しみ役に立つ、子ども企画による『子どもホームページ』を開設します。

【計画策定に関する子どもの参画】

【計画策定に関する子どもの参画】

4 子ども会議からの子どもにやさしいまちづくり提言

子ども会議では、子ども委員が「子どもにやさしいまちづくり」に関連する各テーマに沿ってグループ活動を実施し、その成果について2010(平成22)年2月14日開催の「子どもにやさしいまちづくりシンポジウム2009」において、本市への提言を行いました。

した。シンポジウムでは、子ども委員から子ども目線での提案が示され、市関係課が回答しました。提案内容は以下のとおりですが、ここで示された提案についても今後の市施策の参考としていきます。

子どもにやさしいまちづくりシンポジウムにおける提案

子ども委員からの提案

○「遊び」を通じた子どもの交流について

<提案要旨>

子どもが公園で遊ぶことが少なくなっている要因として、ゲームの普及の他に、公園にゴミが多いことや不良がいること等が挙げられる。公園等の外で遊ぶことで、健康が保たれ、友達との仲も深まるので、子どもたちが安全に遊べる環境をつくってほしい。

<市回答要旨>

公園については、業者による維持管理のほか、地域のボランティアの皆さんで清掃や施設の点検等を行い、安心して利用できるように管理しています。どの公園も、清掃回数には限界があるため、利用する人がマナーを守り、きれいに使ってもらうことが大切です。公園には設置できる遊具の数に限りがあります。いろいろな公園のいろいろな遊具で遊んでください。また、鞍ヶ池公園にはプレーパークがあります。遊具がなくても自然の中で自由に遊ぶということも考えてみてください。

住んでいる地区の例えば、区民会館などで、住んでいる大人の人たちが、見守りながら、いろいろな年齢の子どもが交流できる「遊び場」を作っていくことを考えています。総合野外センターなどの場所で、「遊び大会」などをやってみるのもいいかと思います。初めて会う子ども同士でも、「遊び」があれば、きっと仲良く交流できると思います。

○花いっぱいのできるきれいなまちにするために

<提案要旨>

花やか豊田プランについて子どもにも分かりやすいパンフレットを作ってほしい。そして、このプランに子どもも積極的に関わられる取組や日ごろからできるECOな取組を教えてください。地球温暖化防止のため、交流館等の建物にツタを植えてほしい。

<市回答要旨>

パンフレットの作成については、どんなところを直したらいいのか提案していただく、または、皆さんで、パンフレットの内容を作ってもらえればと思います。現在、この花やか豊田プランにおける活動として、フラワーロード事業では豊田市内の4路線を指定して、道路に花壇やプランターを設置し、地域の市民ボランティアや企業ボランティアの方々が花を育てています。そして、その中には児童や生徒さんも参加しています。皆さんにとって身近な学校や自宅で花を育ててみることも考えてみてください。

植える花や木は、できれば豊田市にあったものを植えるといいと思います。海外産の植物では日本の風景に合わないですし、中には育つ力が強すぎて、元からこの地方にあった草花を生えないようにしてしまうものもあります。昔のような薪や炭の生活をすることはとても不便なので、近くに行くときは車を使わない、エアコンの設定温度を変えるなど日常生活の中で二酸化炭素を出さないことを考えていただくといいと思います。豊田市では、市の建物や敷地に草花を植えて緑にすることを考えていますので、皆さんの提案を活かしていきます。

豊田市は、昨年の1月に、国から「環境モデル都市」に認定され、「交通」、「産業」、「森林」の3つの分野を重点的に取り組んでいます。提案の「ツタを植える」ことによって、省エネと冷房費用が節約の効果があるそうです。ツタに限らず、ゴーヤは食べることもでき、アサガオだったら綺麗で美しい街になります。「環境にやさしいから我慢する」ではなく、「みんなが楽しく元気になること」を活動に取り入れていきたいと思っています。交流館に限らず市の施設では、緑化や省エネ化、太陽光などの自然エネルギーの活用などに率先して取り組み、環境にやさしい施設にしていきたいと思っています。

○子どものための「安全マップ」の改善について**<提案要旨>**

全地区の安全マップを作成することは困難なので、全地区に対し、子どもと一緒に作る安全マップ作成に取り組んでほしい。その結果、子どもみんなが自分の地区の危険をしっかりと認識し、安全に生活することができるようになる。

<市回答要旨>

今は学校の先生やPTAの人たちを中心に作っていることが多いようで、まだまだ子どもの目線にはなっていないことがあるかも知れません。また、安全マップについては、地域ごとに状況が違い、それぞれ自主的に作っていますので、すぐに子ども目線で統一したものを作ることは難しいかもしれません。子ども会議に参加されている皆さんにお願いしたいことは、学校の先生やPTAの役員の人に、安全マップを作るときは参加したいと、伝えていただきたいと思います。

○子ども条例をもっと多くの人に知ってもらうために**<提案要旨>**

パンフレットを小学生低学年版、小学生高学年版、中学生版の3パターンにして刷新（デザインや内容も子どもと一緒に考える）

子ども条例マスコットキャラクターのデザインと名前の公募

<市回答要旨>

現在の条例パンフレットは、平成19年から使用しています。1つ目、“パンフレットの内容が読みづらいこと”、2つ目、子ども条例の周知度など、子どもから大人まで“いかに興味を持ってもらえるかどうか”ということについて、キャラクター作りから、パンフレットの内容まで、ゆっくり時間をかけて、一緒に進めていきたいと考えています。